〈巻頭言〉

# 安宅川佳之先生を偲んで

日本福祉大学経済学会代表　上田和宏

2011 年 8 月 26 日，安宅川佳之先生の突然の訃報に接し，私たちはただ呆然とするだけでした．いつもにこやかにお話しされていた先生にお目にかかることができなくなったことをいまだに実感できずにいます．

先生は，和歌山大学経済学部をご卒業後，日本生命に入社されました．その後，ニッセイ BOT 投資顧問株式会社，ニッセイアセットマネジメント株式会社において重職に就かれた後，2001 年に日本福祉大学経済学部経営開発学科通信教育部特別任用教授として赴任されました．以来，精力的に教育，研究に取り組まれました．

学生に対する教育という側面では，先生は通信教育部生だけでなく経済学部，福祉経営学部の通学課程の学生に対しても情熱を傾けられました．また，大学院教育においても中心的な役割を担われ，2007 年からは大学院福祉経営専攻の専攻長を務められました．

私が所属する経済学部では先生に学部の都合で無理なお願いもさせていただきましたが，その都度，お引き受けいただき助けていただきました．講義についても，専門分野の年金や保険に関する講義だけでなく，西洋経済史やビジネスの基礎を教える講義のご担当をお願いさせていただきました．西洋経済史については，長期波動のご研究の関係上関心の高い分野であるとおっしゃっていただきました．また，ビジネスマンとして活躍されてきたご経験をもとに，新入生にビジネスで必要な要素を教えていただきたいとお願いした際も，何を伝えれば良いかななどとおっしゃられながらも快くお引き受けいただきました．

先生は学生を教えたり彼らと話したりすることを大事にされていました．講義を履修していた学生に声をかけられて経済学やポートフォリオの勉強会を開き，集まった学生たちを丁寧に指導されていました．熱心で丁寧な指導は，学部学生に対してだけでなく，大学院や通信教育部における教育においても定評のあるところであったとうかがっています．

先生は大学に勤めることになり，研究に打ち込めることが本当に楽しいと話されていました．先生が特に力を注いで研究されていたのは，長期波動論や年金・保険などに関わる社会保障制度の問題でした．ご赴任後も，『コンドラチェフ波動のメカニズム』（ミネルヴァ書房，2000 年），『長期波動からみた世界経済史』（ミネルヴァ書房，2005 年），『家族と福祉の社会経済学』（日本経済出版社，2010 年）などのご著書を発表されました．通信教育部のテキストとして執筆された『シルバーファイナンス』（日本福祉大学，2004 年）は，「はじめに」に書かれているように

『「高齢者の生活資金の調達」に関する「新しい学問分野」』を切り開く画期的な著書であると思われます．

先生の遺作となった『家族と福祉の社会経済学』では，公共政策は社会を安定化させる保険機構であり，その保険機構が行きわたるとモラルハザードが発生する，少子化はその究極の現象であると述べられています．そして，世代間利他主義の衰微がこうした現象の根本原因であり，その克服には家族の健全な形成の必要性を唱えられています．私自身はその論に必ずしも合点がいかず，先生といろいろと議論させていただきました．ただ議論を通して強く印象づけられたのは，先生のご家族に対する強い思いでした．先生の経済学の背後にはご家族との絆が大きな役割を果たしていたのだろうと思います．お亡くなりになる少し前に，お好きであったカラオケの話をうかがったところ，最近はだんだん昔に戻って童謡を歌っていますよとおっしゃられていました．その話をうかがったときに，先生が現代の日本が抱える社会保障の問題の鍵として「家族」を挙げられているのが少しわかったような気がしました．

先生は次の本の構想をたてられていたとうかがっています．お元気であればそのお話をうかがうことができ，多くの刺激を与えていただけたであろうと思っています．しかしながら，それも叶わぬこととなりました．先生から多くの教えを受けた私たちは，研究に教育に邁進することでわずかでも先生の学恩に報いなければいけないと考えております．

日本福祉大学経済学会会員一同を代表して，心から尊敬と感謝の念を捧げ，安宅川佳之先生のご冥福をお祈り申し上げます．